



NO.1424

7月23日号

発行所

日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
四四三、四四五八
F 四三、四四五七

7月15日党創立記念日

反戦平和かかげて101年

日本共産党網走市委員会と後援会は、毎週土曜日に街頭から宣伝を行っています。7月15日(土)は党創立記念日にあたり、101周年記念プラスターを掲げて宣伝しました。

松浦村議員の両議員は「日本共産党は1922年(大正11年)7月15日に創立され、当時の日本は、天皇が絶対政治の専制政治がしかれ、農村では重い小作料で耕作農民をしめつける地主制度が支配し、労働者も無権利と過酷な搾取を強いられていました。党は、この状況から平和で民主的な日本をつくるため、侵略戦争反対、男女平等、8時間労働制を掲げて命を懸けた闘いをしてきました。

戦後、それらの要求は日本国憲法にて実現しました。しかし、アメリカい

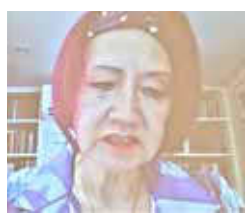
なり、大企業優先の政治が続き、賃金は上がりながら物価高騰で生活は大変です。秋に行われるであろう総選挙では、この二つのゆがみを『もとから変える』ことが求められます。比例代表で日本共産党を躍進させるため力を貸して下さい」と訴えていました。

母親大会特別講演 浜矩子氏 平和をいかにしてつくるか

7月17日、北海道母親大会が札幌市で開かれ、網走ではオンラインによる参加となりました。

「憲法と経済が出会う場所」そこに「平和」と題して、同志社大学名誉教授でエコノミストの浜矩子さんが講演しました。

浜さんは「経済活動は人間を不幸にしてはいけません」「憲法前文には、日本が諸外国と協調すること、信頼することにより、日本を安全にする」とある。



「不慮の努力をしなれば」と感想を述べていました。



秘蔵書「戦毛」



私が日本共産党に入党したのは、1973年6月で20歳になったばかりでした。その半年前に日本民主青年同盟に加盟して、日本共産党については学習していたので「70年代の遅くない時期に民主連合政府をつくらう」との呼びかけに、特に躊躇なく入党しました。その時は、党創立51周年記念の党勢を増やす期間でした。

あれから50年が経ちました。今振り返ってみると、家が貧しかったため、中学2年の時に高校進学を断念。就職の道を選び、その頃から2年間学ぶことを拒否しました。だから、新聞を読むにも漢字が読めず、書けませんでした。民青同盟に入ってから懸命に学びましたが、中学時代の修学拒否の影響は、今でも時々でてきます。党に出会ったことで、それなりに読み書きができるようになり、苦手だった人前で話すこともできるようになりました。これからも50年党員として精進し、学ぶことを忘れず努力してまいります。

村を駆け回る



岸田政権は中国や北朝鮮の脅威をあり、日本の軍事拡大が必要だとし、5年間で43兆円の軍事費の財源法を成立させました。マスコミは敵基地へのミサイル攻撃について「憲法違反だ」とは批判をしません。軍拡はある程度必要の声があります。5兆円も増やす大軍拡は医療や社会保障費を削り、さらには増税と私たちの暮らしに直結します。

日本の貿易で中国が一番の貿易相手国です。もし、台湾有事となれば、私たちは暮らしていけないでしょう。今、日本の食料自給率は38%で、輸入が止まれば、私たちは飢えてしまいます。武力を備えなければいけません。日本は早急に食料増産をしなければなりません。アメリカ力いなり大企業もうけの農政を変えなくてはならない時だと思えます。



流水

6月25日、4年振りにはサロマ湖100キロウルトラマラソンが開催された。全国から大会を待ちわびたランナー3500人が参加。2月にサロマ湖マラソンの案内状が届いた。私にとつてこのマラソンは、生き方も変えるほどの影響を与えた▼「人は、一人では生きられない」謙虚な心、多少の逆境も乗り越える精神力をも与えてくれた。65歳から50キに変え、毎年完走して来たがコロナ禍で3年間中止。70歳過ぎてからの3年のブランクは大きい。体幹の筋肉は落ちた。5時間歩かずには走り通せるのか!?挑戦は来年と諦める▼久しぶりに高校の同級生に出会う。お互い元気何よりと喜ぶが「俺、急に息切れし2階の階段上がれなくなり病院で肺気腫と診断された」と元気が無い。長い間喫煙してきたからと言う。Mも、Kも同じ病気で通院している。と知りビックリする▼散歩中、手入れの行き届いた庭に色とりどりの薔薇の花に足が止まる。7月の青い空に、真紅の薔薇が誇り高く咲く!!

アスリート爺